月刊
新翔タイムズ
第20号
新翔タイムズ編集室
発行・南紀州新聞社

インターンシップを体験
1年生「産業社会と人間」

1年生全員がインターンシップ（職業体験学習）に参加した。「産業社会と人間」の総まとめであると同時に、本校のキャリア教育の重要な柱となっている。いくつかの職場からの報告と、生徒の感想文を掲載する。

■太地漁業協同組合（2組岡本君、炭蔵君）

2人とも3日間を通じて、組合の人の指示を一生懸命に聞きながら、魚の水揚げや計量、清掃活動などに熱心に取り組んだ。太地漁協では徹底した衛生管理を行っているため、作業中は特にその点を心掛け、帽子をきちんと着用し、長靴の消毒を行った上で作業を行った。

炭蔵君は「3日間だけでなく、1週間ぐらい体験したかったです。仕事に対する思いが変わりました」と述べ、勤労観が変化したようであった。

太地漁協で魚に触れる生徒

太地町役場で配食サービスの弁当作りの手伝い

■太地町役場（1組北地君、4組野口君）

住民福祉課の保健や福祉分野の仕事、最終日は保育所と幼稚園での実習など、いろいろな仕事を体験した。清掃センターの仕事では、ごみクレーンに触れた。役場職員の方々の働く姿を目の当たりにしたり、健康相談や配食サービスを手伝ったり、デイサービスではお年寄りの話を聞いた。保育所、幼稚園では子どもの面倒を見て、生徒たちにとって普段は関わる機会の少ない世代の人々と交流を持つことができた。

3日間で、町役場の行政機構を学ぶとともに、社会を構成するさまざまな年代の人々の存在に気づき、物事を多面的にとらえる感覚を身に付けられたように思う。

■サークルK紀州太地店（3組西田君）

店内の清掃、品出し、商品陳列やレジ打ちの作業を、段階を踏んで実習した。スタッフと同じ制服を着用し、お客さんが入店されたときには「いらっしゃいませ!!」と元気にあいさつした。

西田君は「初めてレジ打ちをやらせてもらったときは、緊張してうまくしゃべれなかったので、お客さんと接することはとても難しいと思った。学校では学ぶことができない貴重な体験ができ、仕事の大変さを知ることができた」と感想を語った。

サークルK紀州太地店で商品管理の仕事に取り組む

スキー・スノーボード研修
長野県飯綱高原で修学旅行

長野県飯綱高原で実施された修学旅行は、滞在型の体験学習を通じて、集団生活における個人の役割の自覚や協力の精神を養うこと、スポーツとしてのスキー・スノーボード研修、雪国の生活を知るなどを目的に124人が参加した。

約10時間かけて移動する修学旅行は大変だったが、スキー・スノーボードの講習を予定通り実施することができた。

講習初日は快晴に恵まれる中、開校式が行われた。修学旅行委員長の5組大谷菜央さんがスキー学校の先生方に対し「よろしくお願いします」とあいさつし、講習が始まった。

2日目は午前中が雪、午後からは雨まじりの雪のち濃霧と決して良い状況ではなかったが、閉校式でのスキー学校の校長先生は「皆さんは大変恵まれている。なぜなら2日間で雪国の天候をたくさん経験できたからです」とあいさつ。生徒たちは雪国のきれいな景色と変化の激しい気候を体験した。

最後に修学旅行副委員長の4組川村裕彰君が「先生方の指導でうまく滑れるようになりました」と感謝を述べた。

生徒たちは、「移動が大変だがスキーはとても楽しい」「スノーボードは難しく最初うまく滑れなかったが、インストラクターの方の教え方がうまく、滑れるようになった」という感想が多かった。また、閉校式直前には「もっと滑りたい」という意見も聞かれ、充実した講習だった。

パンづくりに挑戦
ビジネスシミュレーションセミナー準備進む

2年生マーケティング選択生徒が3月14日(日)午前9時～、新宮市仲之町商店街で「ビジネスシミュレーションセミナー事業に参加する。8グループに分かれて、さまざまな手作りの品を販売する。

品目は、エプロン、携帯電話ストラップ、液体洗剤、小物入れなどの生活雑貨、手作りパン、クッキー、ピザ、シーフードせんべい、スタミナ丼、春巻きなどの食品。新宮商工会議所青年部の皆さんら外部講師の指導を受けて準備を進めてきた。

参加生徒は、グループごとに一つの会社組織を構成し、社長、経理、販促など役職を決めて事業計画書と収支予算書を作成する。その計画書と予算書を使って「銀行借入プレゼン」を行い、銀行役の青年部員と資金の借入交渉を行い、その後開店準備をし、接客マナーも学ぶ。

行事のあとは、仕入れ費用、経費、収益を計算し、決算処理も行う。決算の結果、優秀な「会社」は決算発表会・表彰式で表彰される。

手作りパンを製作・販売する木野口瑞穂さん、坂井田千豊さん、關口康恵さん、濵中志帆さんは串本町に在住するパン教室講師、江川有紀子さん宅を訪問し、パンの作り方を教わった。1月に江川さんと製作するパンの量、種類について話しあった4人は、この日バターロール、メロンパン、クリームパンの作り方を実習。慣れない手つきも次第にスムーズになり、3種類のパンを焼き上げることができた。本番前日には、江川さん宅を再び訪れ、販売するパンを作る予定。

茶道部（顧問／山崎美穂）
クラブ紹介

先生の指導を受ける茶道部員ら

茶道部は現在、2年生6人、1年生4人で、毎週水曜日に礼法室で活動している。講師に裏千家流の阪口宗朝先生を招き、お辞儀の仕方からお手前まで、一つ一つの動作を丁寧に美しくできるよう、一生懸命練習している。

部員の中には、小さいころから茶道を習っている生徒も数人いるが、ほとんどが茶道初心者。生徒たちはお互いに教えあいながら、熱心に取り組んでいる。

同部にとって1年間で最も大きなイベントが、文化祭でのお茶会。おいしいお抹茶を振る舞い、多くの人に喜んでいただけるよう、日々頑張っている。文化祭では、ぜひお茶会にいらっしゃってください。

◆先生の紹介◆
中岸速人先生（46）

はじめまして、中岸速人と申します。前任校の新宮高校では建設工学科の教員をしていましたが、新宮商業高校から新翔高校への校名変更と、それに伴った総合学科への学科改編により2年前にこちらに転勤してきました。

担当教科は工業で、総合学科建設技術系列の選択生に、「測量」・「土木施工」・「実習」などを指導しています。また、今年度は3年1組の担任とクラブではハンドボール部の顧問をしています。

この学校に転勤して間もなくのこと、ある生徒に「何で先生になったの」と質問を受けました。「うーん！」と、少し間をおいてから「教育実習のとき、出会った生徒たちに感動したからや、そして教師になったらまた感動することあるやろ。そう思って教師になった…うんぬん」と答えました。教師になった理由はほかにもあるのですが、そんな話をした後、二十数年前の教師になったころのことを思い出し、「初心忘るべからず」やな、この学校でもう一度、初心に返って生徒たちといっしょに感動できることをしたいな、と思い、はや2年がたとうとしています。

3月1日の卒業式、この学校に来て、初めての卒業生を送り出します。2、3学年と持ち上がって担任をしましたが、前任校では男子ばかりを多く指導していたこともあり、女子の多いこの学校での初担任は当初とまどうことばかり、正直苦労もありました。そんな時「初心忘るべからず」。教師になって初めて担任をもったとき、その時の学年主任だった先生が「苦労して、頑張って卒業生を送り出したときほど思い出が残るぞ」とおっしゃったことを思い出しました（ちなみに、この学年主任は本校の校長先生です）。

あっという間の2年間、生徒たちに教え、また教えてもらいながらともに成長できたかなと思っています。来る卒業式には生徒と一緒に感動を、そして教師として至福の時を迎えることでしょう。

「防災紙芝居」を発表
「防災教育チャレンジプラン」に参加

「防災教育チャレンジプラン」ワークショップが東京都江東区の「有明の丘基幹的広域防災拠点施設」で開催された。今年度3年生11人が「防災デザイン」の授業で取り組んだ「防災紙芝居の制作・上演」について発表した。

このチャレンジプランは、同実行委員会と内閣府（防災担当）が主催。国内外で大規模な災害が起きている昨今、全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校などに対し、防災教育のプランを募集、選出し、その実践への支援を行っている。

1日目は2009年度の実践団体の発表があり、本校は「防災紙芝居の制作・上演」と題して、野間教諭と3年生の戸部衿子さん、松本弥之君が紹介。その後、2010年度の実践団体の発表があった。

2日目は同実行委員長で京都大学の林春男教授が「極端気象への対応」、続いて内閣府の越智繁雄参事官が「大規模水害対策について」と題して講演した。

その後、防災に関する優秀な実践団体として、「防災甲子園」や「ぼうさい探検隊マップコンクール」の入選団体の発表があった。

この2日間参加して、全国各地の防災教育への取り組みや防災に関する知識を深めることができた。

防災紙芝居を上演した

地域との連携が評価
防災教育拠点校育成事業実践発表会

和歌山県情報交流センターBig・U（田辺市）で、防災教育拠点校3校（新翔、田辺工業、耐久）の担当教員、生徒および県内の県立学校の教員計117人が参加し、「防災教育拠点校育成事業実践発表会」を開催した。

この発表会は、3年間の指定を受けている3校が、これまでの活動のまとめを発表するものであり、本校から教員2人、生徒12人が参加。各校の発表は、それぞれの学校の取り組み、特色などがよくわかる優れた内容であった。

発表後、講師の舩木伸江さん（神戸学院大学学際教育機構）より各校の講評があり、本校の「防災デザイン」での取り組み（防災紙芝居の制作・上演、避難経路板制作・設置）は、地域との連携や地域に貢献している取り組みであるとの評価を得た。

三尾川小学校でよみかたり

古座川町立三尾川小学校で交流活動を行った。3年生のよみかたりボランティア4人が（2人欠席）と交流した。

全学年ということで、選本に頭を悩ませたが、低学年用に『でこちゃん』、中学年用として『こんとあき』、高学年用としては『ともだち』、全学年参加型の紙芝居『さるかに合戦』を用意した。

生徒たちは5校目ということもあり、大変リラックスして落ち着いたよみかたりができた。小学生たちも食い入るように絵本を見て、時には笑顔で発言し、楽しい実りのある時間が持てたと思う。最後に少し時間があったので、手遊びで盛り上がった。

それぞれの学年の児童には、こちらの狙い通り、各絵本が印象に残ったようで、一同少しほっとした。また『さるかに合戦』は、「紙芝居のなかで本当にしゃべっているよう」と、児童たちからの感想もあった。

今年度の活動は最後となり、見つかった課題を良い方向へもっていく努力をしながら、次年度の活動につなげていきたい。

よみかたりで交流した

3年生のよみかたりボランティアの4人